

芦屋の海浜部における 海辺のイメージの変遷に関する研究

緑地環境計画工学研究室
黒井 法吏

研究の背景

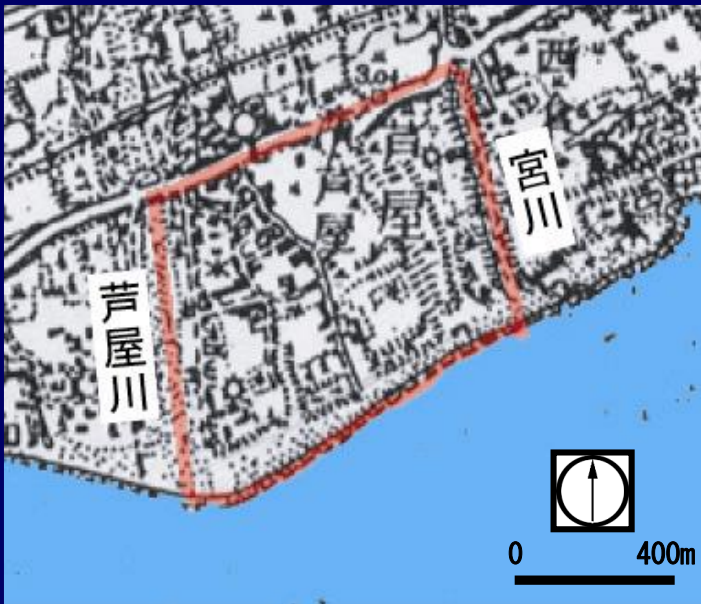
■ 埋立前の芦屋の海浜部



■ 埋立後の芦屋の海浜部

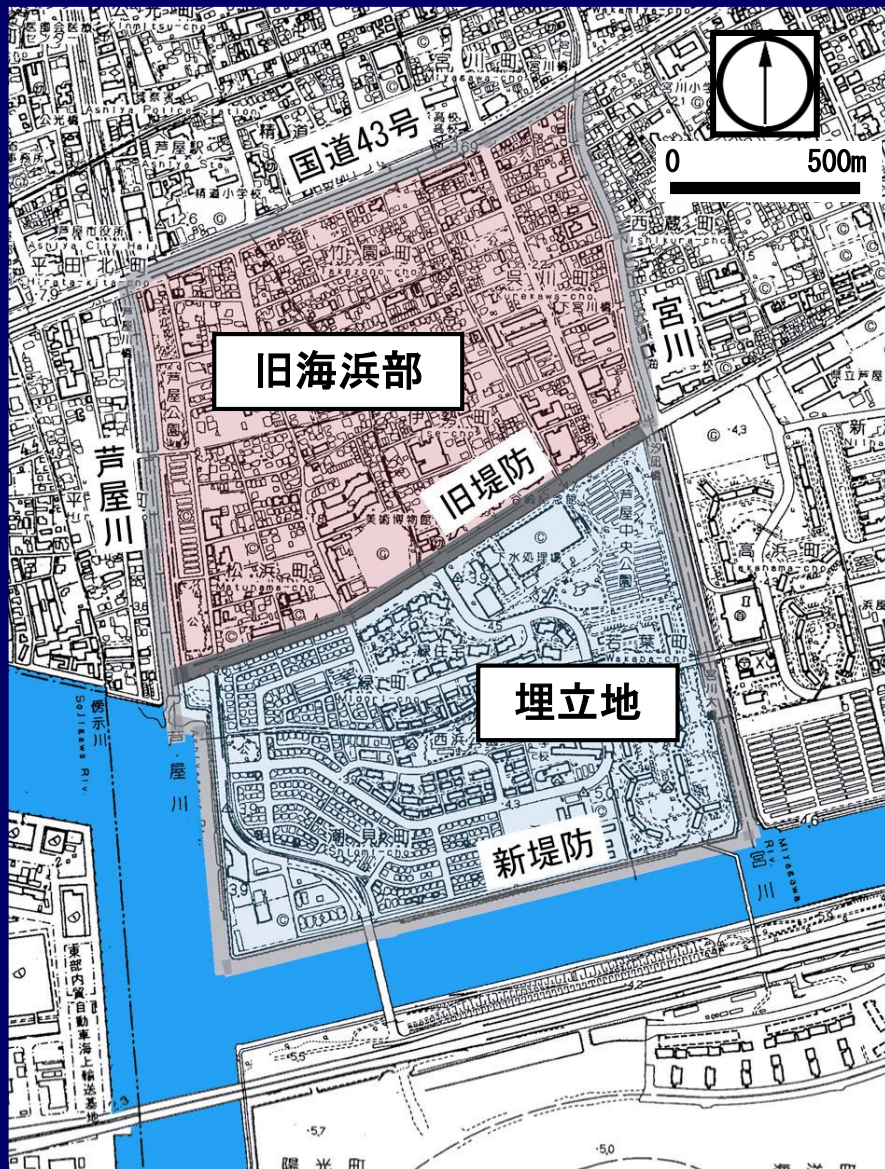


(昭和47年以降)



芦屋の海岸部(大正3年)

調査対象地区



海浜形態及び 海浜景観特性の変遷に 関わる調査方法

■ 海浜形態の変遷

・ 海岸部の遷移

(参考文献)

手々かむイワシいらんかえ
芦屋の歴史と文化財 等

(平面図)

大正3年 (1/50,000 : 国土地理院発行)

平成10年 (1/10,000 : 芦屋市発行) 等

・ 市街地の変遷

道路構造 : 6m未満、6m以上

建物階数 : 2階以下、3~6階

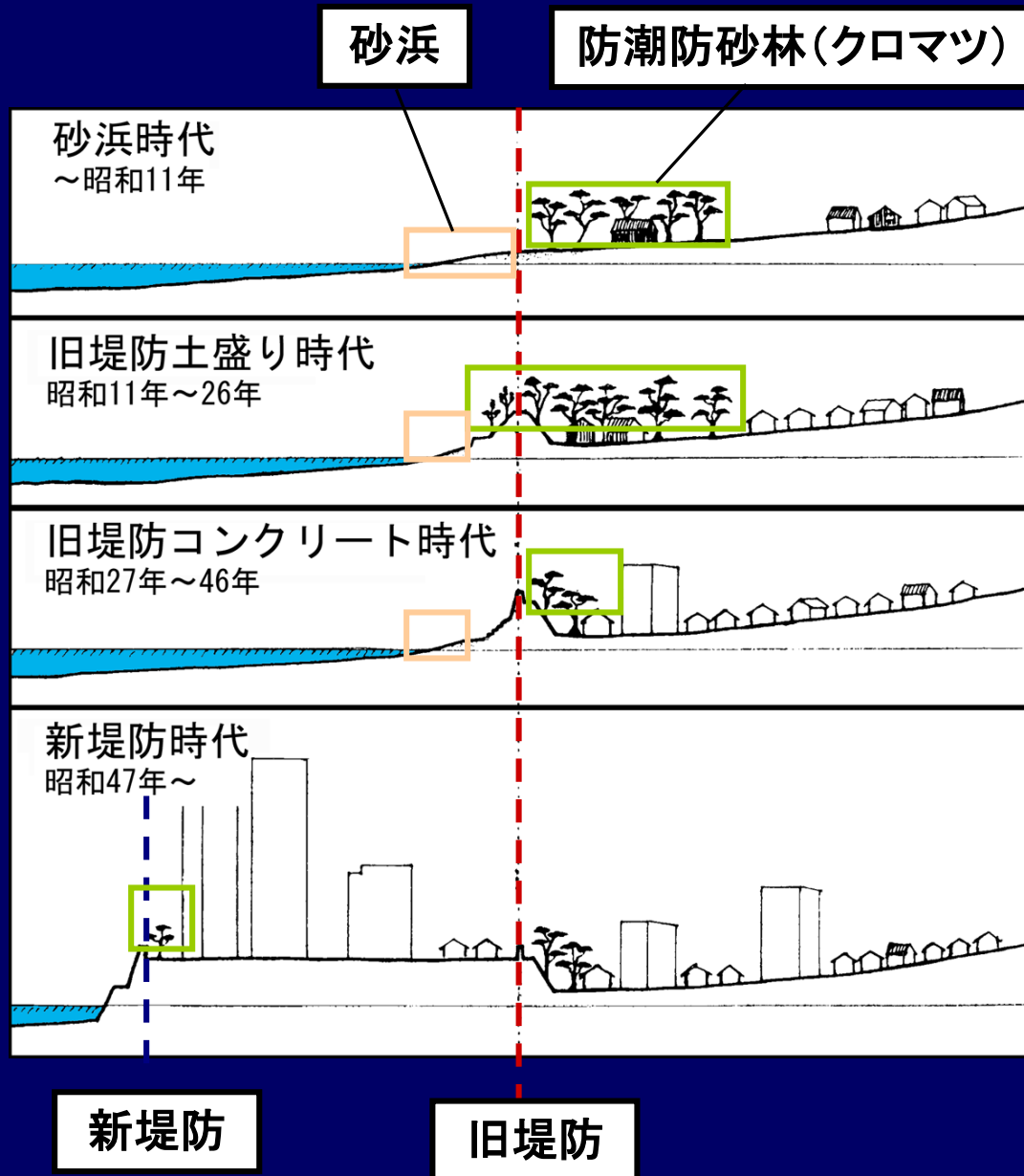
7階以上

■ 景観特性の変遷

・ クロマツの分布特性

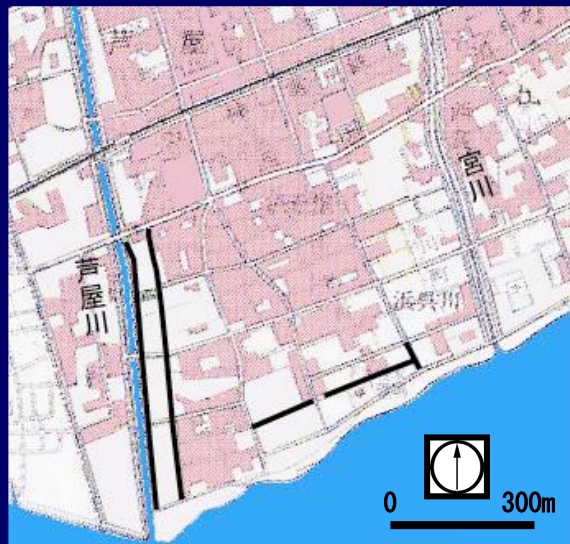
・ 海視域 (資料調査及び現地調査)

海岸部の遷移



海浜部の市街地の変遷：道路構造、建物階数

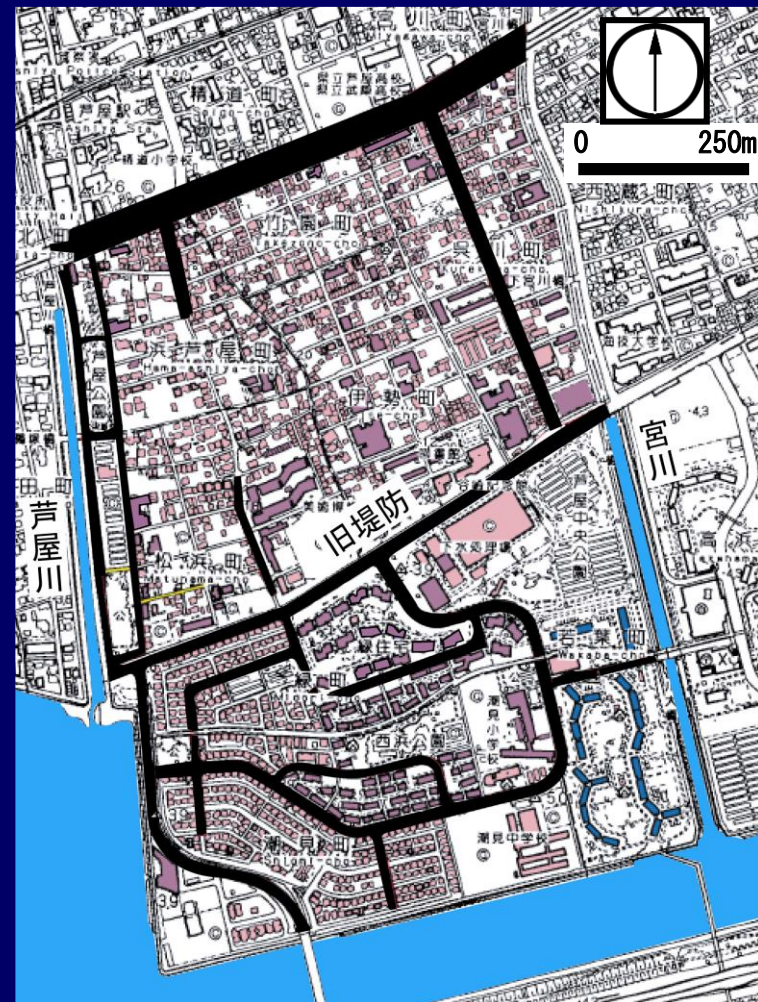
■ 砂浜時代（～昭和11年）



■ 旧堤防コンクリート時代（昭和27～46年）



■ 新堤防時代（昭和47年～）



凡例

道路構造(幅員)

—— 6m未満

—— 6m以上

建物階数

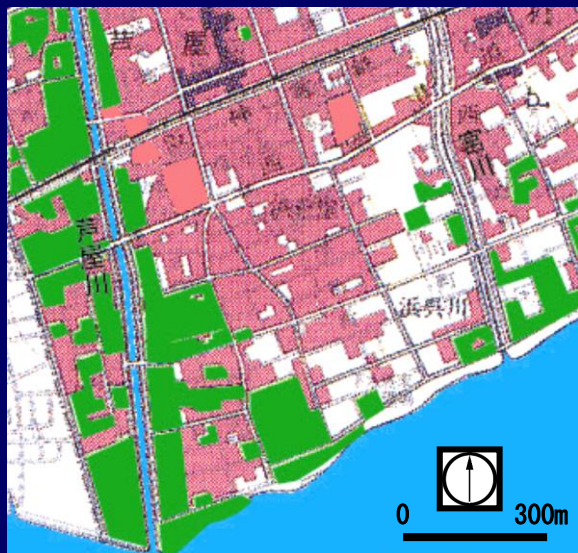
2階以下

3～6階

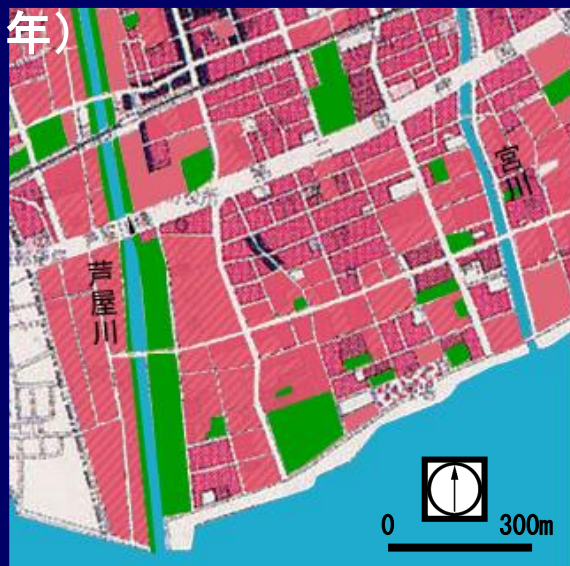
7階以上

景観特性の変遷:クロマツの分布特性

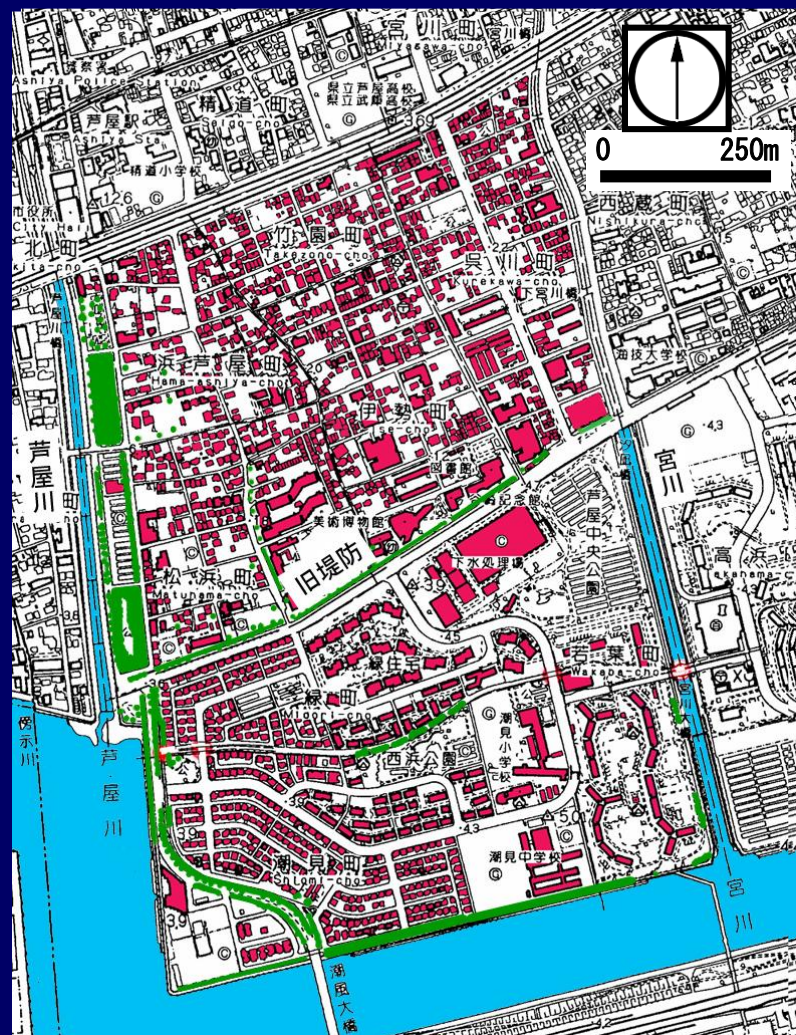
■ 砂浜時代(～昭和11年)



■ 旧堤防コンクリート時代 (昭和27～46年)



■ 新堤防時代(昭和47年～)



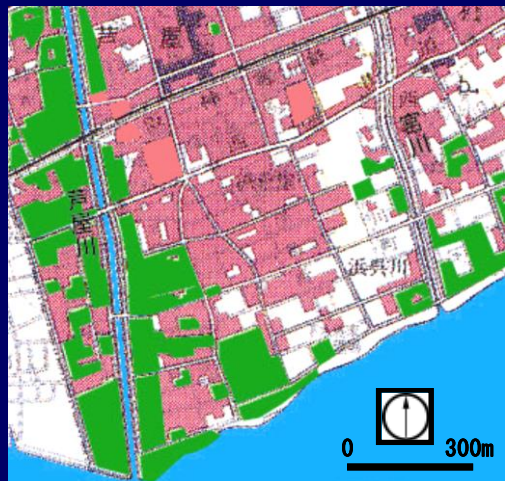
凡 例

■ 市街地

■ クロマツ

景観特性の変遷：海視域

■ 砂浜時代（～昭和11年）



砂浜時代(大正12年)



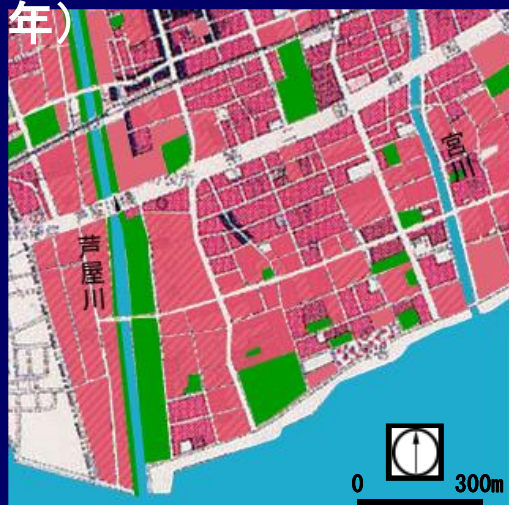
東西道路からの海視域

砂浜時代(昭和4年)

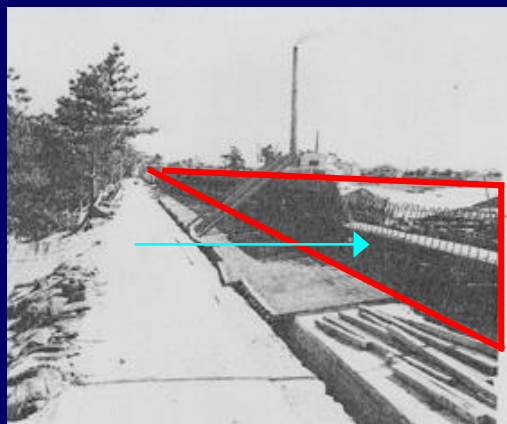


南北道路からの海視域

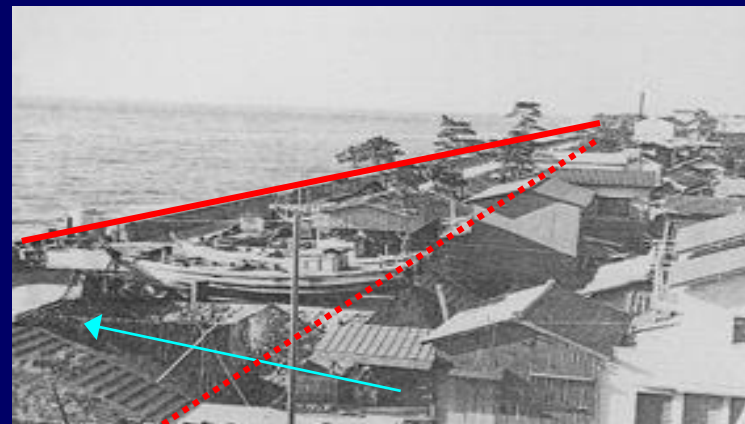
■ 旧堤防コンクリート時代（昭和27～46年）



旧堤防コンクリート時代（昭和36年）



旧堤防コンクリート時代（昭和44年）



赤線で囲まれた範囲がハザードとなって地上からの海への見通しを阻害している

凡例 ■ 市街地 ■ クロマツ

景観特性の変遷:海視域

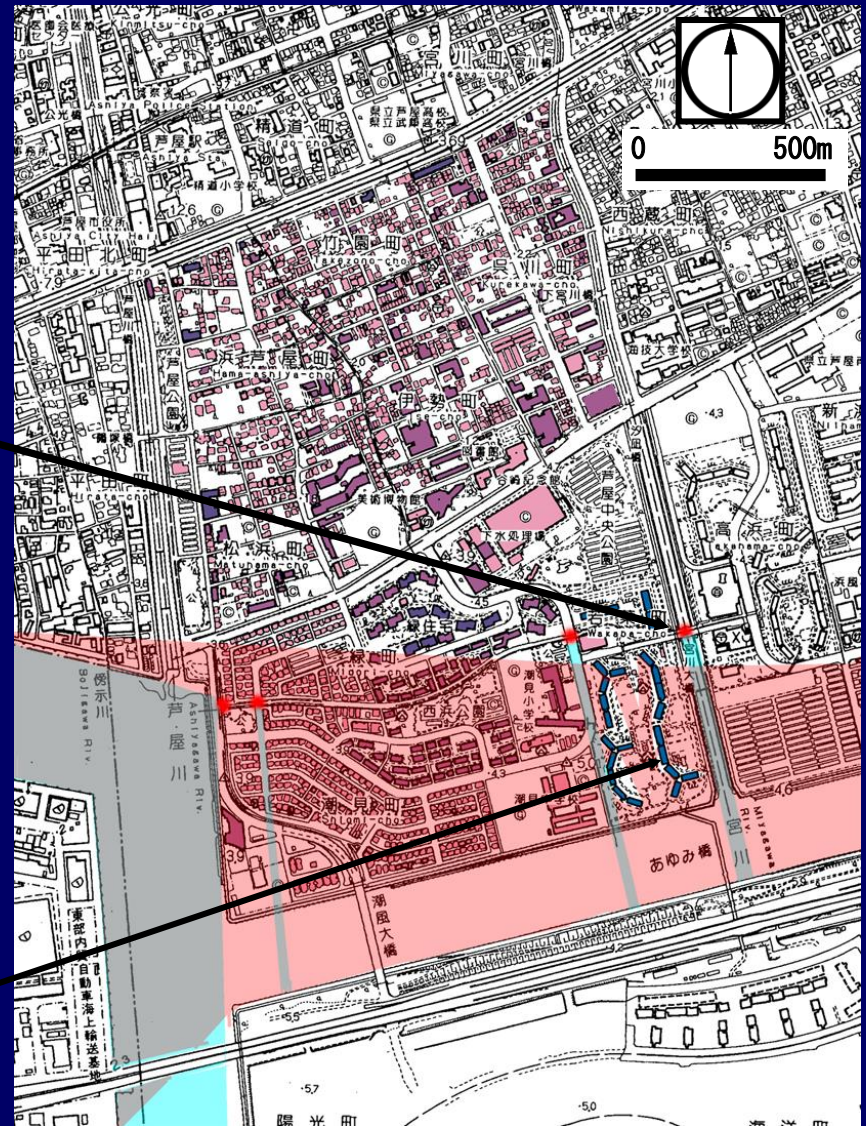
■ 新堤防時代(昭和47年～)



橋の上からの海視



高層住宅からの海視域



- 高層住宅からの海視域
- 橋の上から海視域が確保できるポイント
- 地上から海視域が確保できるポイント

海浜景観に対する居住者意識の比較に関わる調査方法

■ 調査日：2002年11月

■ アンケート被験者数 旧海浜部 124／500

埋立地 123／500（有効回答数／配布

数)
■ 調査項目

● 海辺を想起する要素

○ 物的要素

（選択肢）高層住宅・旧堤防・戸建住宅・砂浜・河川・クロマツ・橋・図書館・公園・緑道・湾岸高速・水路 等

○ 情緒的要素

（選択肢）風・空・潮の香り・夕焼け・行事・波の音・眺望・川面の色・新緑 等

● 海辺に住んでいると感じる要素（埋立前、埋立後）

（項目）芦屋公園・松並木・芦屋川 等

（選択肢）強く関与している～全く関与していない：4段階尺度

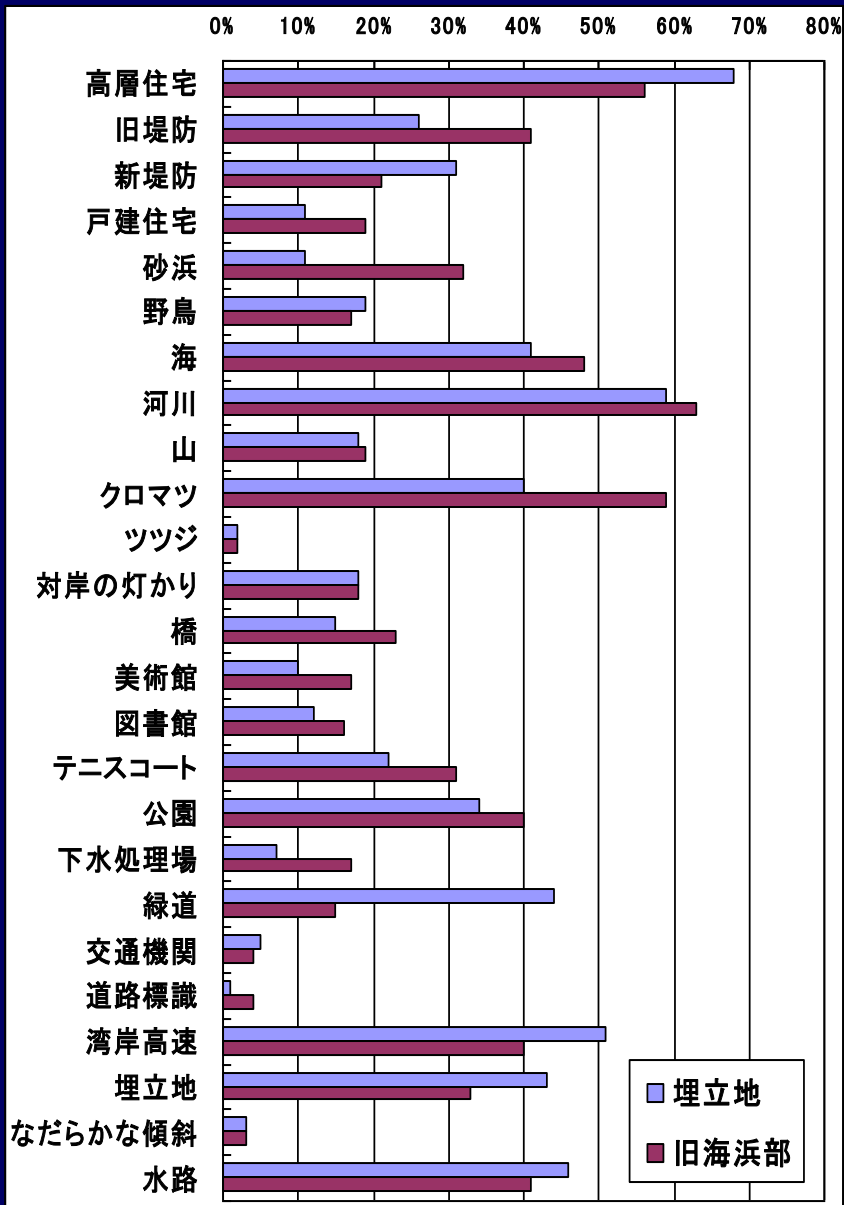
● 海への総合評価

（項目）愛着・潤い・住み心地・安全性 等

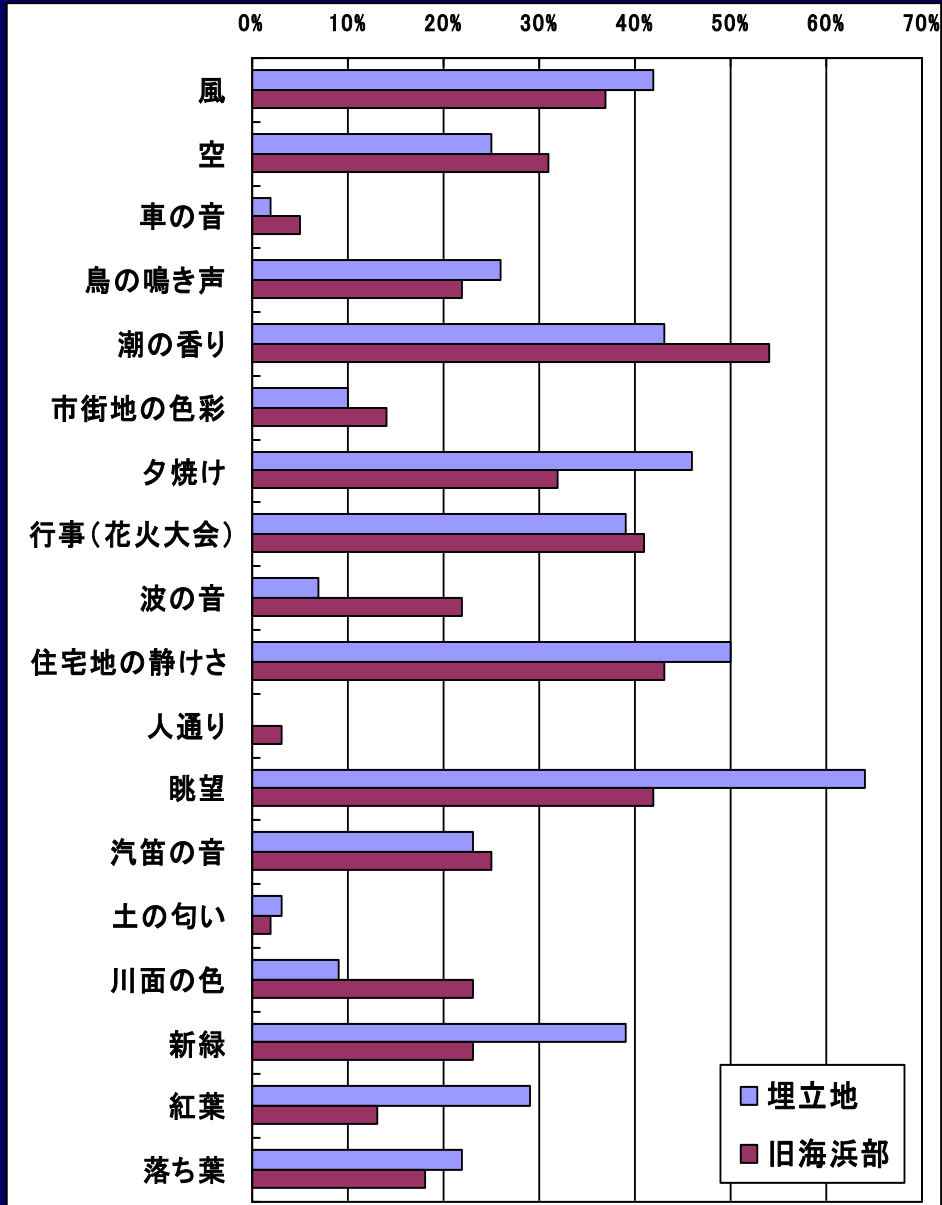
（選択肢）非常に感じる～全く感じない：5段階尺度

海辺を想起する要素

■ 物的要素

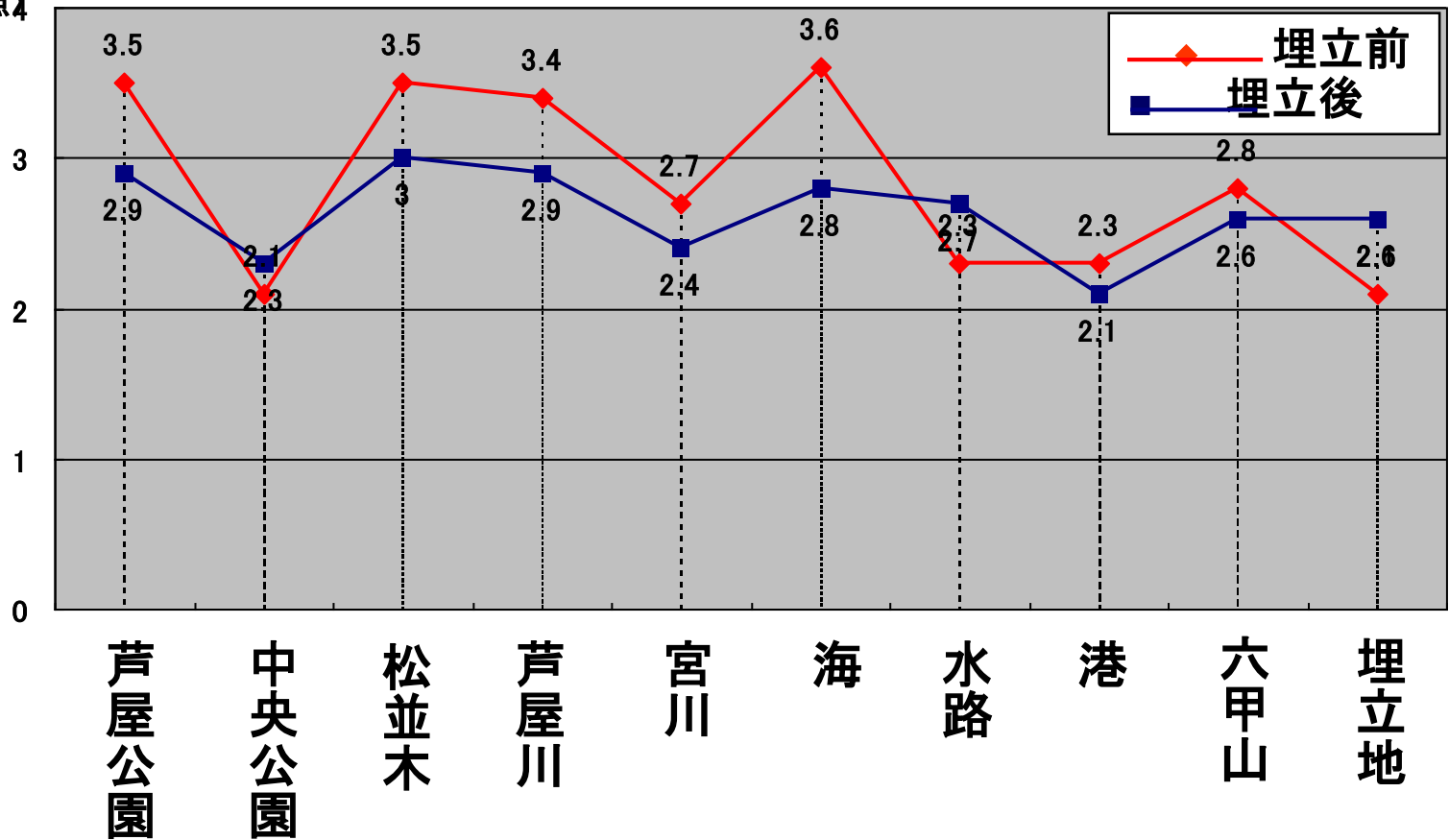


■ 情緒的要素



旧海浜部居住者の埋立前と埋立後の 海辺に住んでいると感じる要素の比較

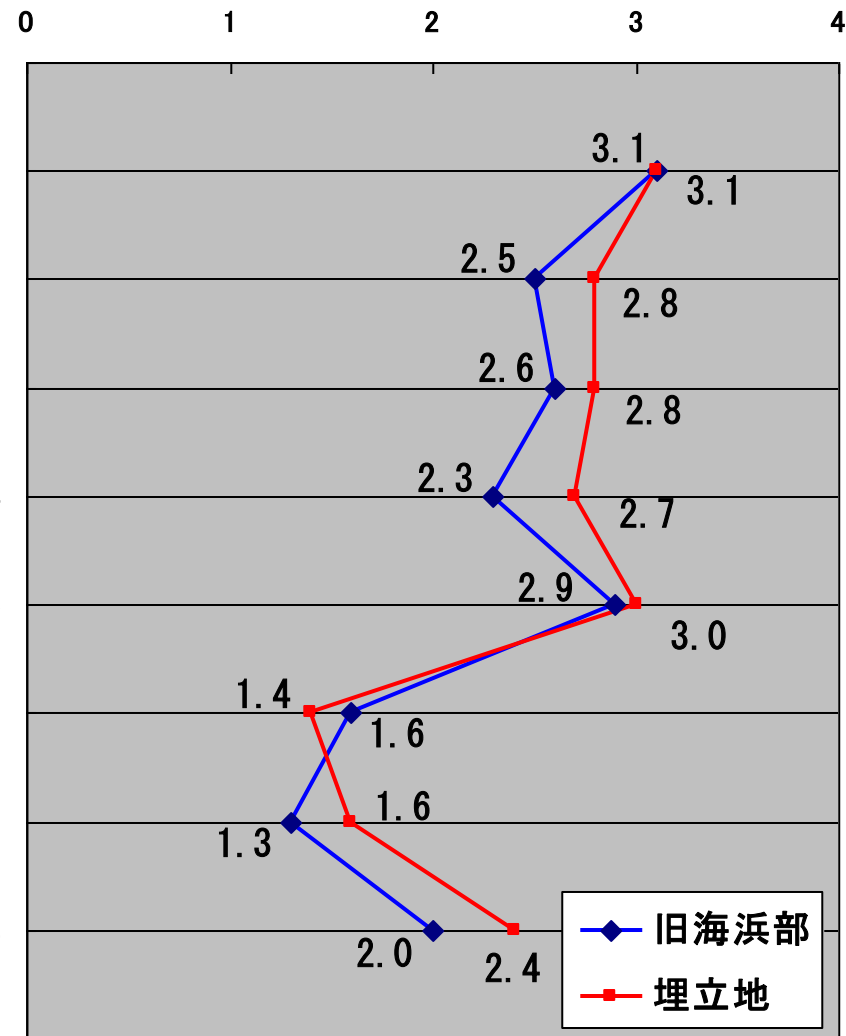
(平均評価
点)



海への総合評価

(平均評価点)

- 海に対して愛着を感じる
- 海に近いので住み心地が良いと感じる
- 海があるため町は美しいと感じる
- 海に近いので生活にうるおいを感じる
- 海があるため身近に自然があると感じる
- 高潮、高波、津波の心配がある
- 海に近いので子供の水難事故の危険性を感じる
- 海、海辺での防犯、風紀に不安を感じる



まとめ

市街化の進行に加え海浜部の埋立てに伴って
海辺特有のクロマツの減少や海への眺望が悪化。

旧海浜部の居住者

埋立前の海辺が有していた自然的な風景要素を想起して
海辺のイメージを強く維持している。

今なお海辺の持つ居住性を高める価値は維持されており、
海辺に抱くイメージの強い影響力を明らかとした。

